

学校名	江戸川区立小岩第五中学校	対象学年と人数	全学年	319名
活動名	ボランティア活動			
指導者	学内指導者：小林 紀榮 学外支援者：小宮 昌弘（学校応援団・農園部） （役割分担）			

## 目標

- 校内・外の美化活動や草木の育成と観察を行うことで、環境に対する意識を高める。
- 学校・家庭での3Rの取り組み（校内バザーのリユース等）を行い、意識を高める。
- 学校農園を活用して、植物を育て収穫の喜びを味わう。

## 成果

- ・学校外に張り出した桜の老木を、安全面・環境美化の面から剪定をした。剪定するばかりではなく、昨年度は桜の植樹を行った。本年度も生徒の心を育成するために、桜の植樹を行う。
- ・教室内の3R運動で紙ごみ量が減少させることができた。1階特別支援学級外にゴーヤを使った「緑のカーテン」を作った。夏場のエアコン使用量を抑えることができた。家庭内にあるリユースできるものをPTAが呼びかけることで集め、バザーで販売することができた。
- ・学校農園で育てた野菜を、給食献立に使用し「地消地産」を実践することができた。

## 感想・課題等

教室内の3R活動を、家庭でも実践している生徒が増えてきた。

放課後や夏季休業中の植物の水やりについて、生徒間で話し合いを行い、当番を決めて取り組んでいた。生徒の自主的な活動が、進められてよかったと感じた。

また、学校農園での活動も多くの生徒が参加し、地域の方々との触れ合いが持てた。生徒にとって初めての体験も多く大変だったと思うが、地域の方々から教えてもらったり、生徒同士で声をかけながらの作業は楽しそうであった。

収穫した野菜を給食献立に使用するときは、昼の放送で紹介し農園のボランティアに参加できなかった生徒たちの関心も高めることができた。

全校生徒を対象としたボランティア活動を行っているが、回数が少なく全員を参加させることが難しかった。時期や回数などを、工夫していくことが課題である。

しかし、区民祭りや自転車盗難3ゼロ作戦などにも参加しているが、週休日のボランティア活動の回数を増やすと教員への負担が大きくなるので、バランスを考えることも課題である。